

オムロン (コード 6645)

◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

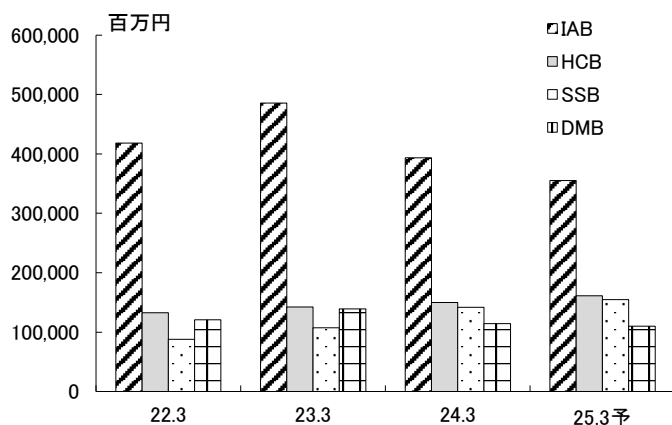
| 決算期 | 売上高 | 営業利益 | 1株純利益 | 1株配 | 営業CF | 投資CF | 財務CF | 現金及び現金同等物 |
|-------|---------|---------|-------|--------|--------|----------|---------|-----------|
| 22.3 | 762,927 | 89,316 | 305.7 | 92.0 | 67,428 | ▲150,163 | ▲29,603 | 155,484 |
| 23.3 | 876,082 | 100,686 | 372.2 | 98.0 | 53,456 | ▲55,533 | ▲58,757 | 105,279 |
| 24.3 | 818,761 | 34,342 | 41.2 | 予104.0 | 44,875 | ▲107,096 | 85,987 | 143,086 |
| 25.3予 | 825,000 | 49,000 | 43.2 | 104.0 | - | - | - | - |

◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (25.3 予は会社側非開示のため表記しない)

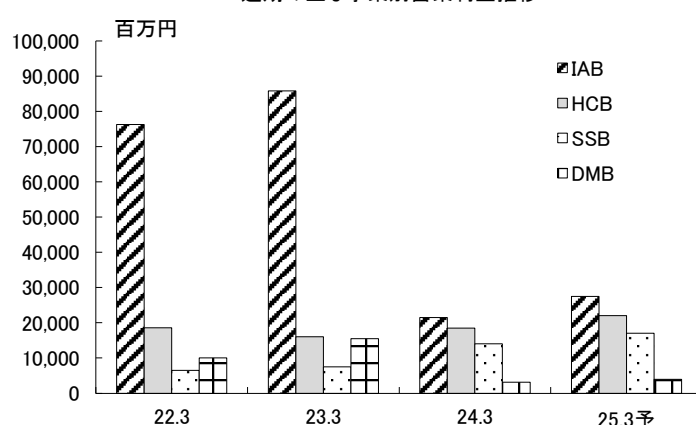
| 決算期 | 売上高 | 営業利益 | 1株純利益 | 1株配 | 営業CF | 投資CF | 財務CF | 現金及び現金同等物 |
|------|---------|--------|-------|------|--------|---------|---------|-----------|
| 22.3 | 369,351 | 45,727 | 161.2 | 46.0 | 39,250 | ▲12,438 | ▲10,362 | 273,994 |
| 23.3 | 404,418 | 41,613 | 139.8 | 49.0 | 19,054 | ▲27,693 | ▲34,637 | 123,917 |
| 24.3 | 400,674 | 20,651 | 30.9 | 52.0 | 25,732 | ▲18,978 | ▲11,432 | 107,715 |

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)

通期の主な事業別売上高推移



通期の主な事業別営業利益推移



24年3月期の業績概況…24年3月期の業績は、ヘルスケア事業 (HCB)、社会システム事業 (SSB) が順調に推移した一方、主力の制御機器事業 (IAB) が大きく落ち込んだことなどから、前年に比べて売上高は約7%減、営業利益は約66%減となった。

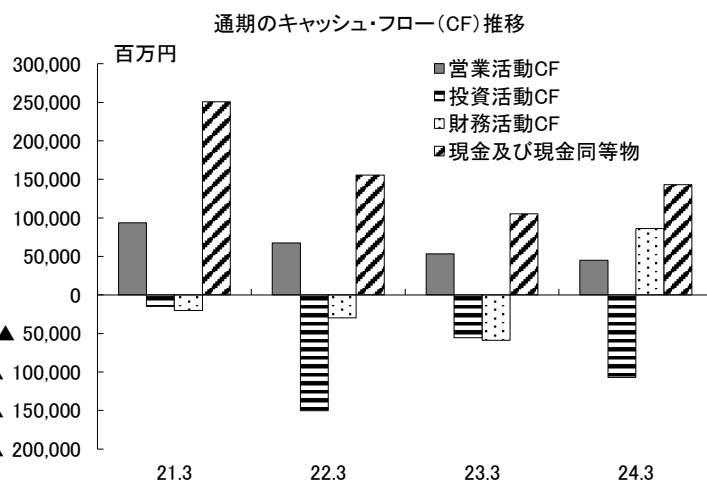
当期の売上高は8,187億6,100万円 (23年3月期比6.5%減)、営業利益343億4,200万円 (同65.9%減)、税引前当期純利益349億5,300万円 (同64.5%減)、同社株主に帰属する当期純利益81億500万円 (同89.0%減) となった。同社株主に帰属する当期純利益については、JMDC社の株式の追加取得時点での市場価格で再評価を行ったことによる損失など約120億円を計上したことなどにより、営業利益及び税引前当期純利益の減益率を大きく上回った。

主な事業セグメント別で、売上高は、IABが3936億円 (同19.0%減)、HCBが1,497億円 (同5.3%増)、SSBが1,416億円 (同32.0%増)、DMB (電子部品事業) が1,144億円 (同17.6%減) など。営業利益は、IABが215億円 (同75.0%減)、HCBが185億円 (同15.3%増)、SSBが140億円 (同87.2%増)、DMBが31億円 (同79.7%減) などとなった。(以上、簡略化のため億円単位で表示)。

HCBについては、欧州など一部地域で主力製品の血圧計が好調に推移し、中国では、肺炎など呼吸器疾患の増加によってネブライザの需要が大きく増加。円安による為替の影響も加わり、増収増益になった。SSBについては、再生可能エネルギーの自家消費ニーズの高まりや補助金制度利用、産業・商業領域でのカーボンニュートラルへの取り組み加速による投資拡大を背景に、

エネルギーソリューション事業では蓄電システムなどが好調に推移し、旅客者数の回復、運賃改定による好調な業績を背景とした鉄道各社の設備投資需要拡大を受け、駅務システム事業も好調に推移。大幅な増収増益となった。一方、売上高や営業利益の大半を占める主力事業の IAB では、特に EV 向け二次電池や半導体関連の投資延期・縮小の影響を大きく受けるなど、製造業の設備投資需要がグローバルで低調に推移。また、課題となっていた販売代理店での在庫は減少傾向にあるものの、引き続き高水準で推移したことも加わり、大幅な減収減益になった。DMB についても、民生業界向け部品需要が顧客の投資抑制や生産活動停滞に加え、顧客での在庫調整の影響を受け、米州、中国を中心に大きく減少。自動車向け部品については、下期に一部の市場で自動車生産台数の増加はみられたものの総じて低調に推移。大幅な減収減益となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末における現金及び現金同等物残高が 1,430 億 8,600 万円（23 年 3 月期末比 35.9%増）となった。営業活動 CF は、当期純利益 99 億 4,900 万円（23 年 3 月期比 86.7%減）、減価償却費 308 億 1,600 万円（同 15.9%増）、受取手形及び売掛金の減少額 273 億 4,100 万円（23 年 3 月期は増加額 235 億 8,100 万円）、棚卸資産の減少額 120 億 5,400 万円（同増加額 290 億 400 万円）などにより、448 億 7,500 万円の収入（23 年 3 月期比 16.1%減）となった。投資活動 CF は、資本的支出 453 億 7,800 万円（同 0.8%増）、投資有価証券の売却及び取得による差引収入額 214 億 7,500 万円（23 年 3 月期は支出額 27 億 7,600 万円）、事業・会社の買収（現金取得額との純額）821 億 7,300 万円（同無し）などにより、1,070 億 9,600 万円の支出（23 年 3 月期比 92.9%増）となった。財務活動 CF は、親会社の支払配当金 198 億 8,500 万円（同 5.1%増）、自己株式の取得 1,800 万円（同 99.9%減）、長短借入金の借入れ及び返済による差引収入額 1,032 億 9,600 万円（23 年 3 月期は無し）などにより、859 億 8,700 万円の収入（同 587 億 5,700 万円の支出）となった。



25 年 3 月期の業績見通し…25 年 3 月期の業績は、売上高 8,250 億円（前期比 0.8%増）、営業利益 490 億円（同 42.7%増）、税引前当期純利益 210 億円（同 39.9%減）、同社株主に帰属する当期純利益 85 億円（同 4.9%増）の見通しで、2,000 人規模の人員削減に伴う一時費用約 280 億円の計上などにより、税引前当期純利益は減益の見込み。

主なセグメント別の予想で、売上高は、IAB3,550 億円（同 9.8%減）、HCB1,610 億円（同 7.5%増）、SSB1,545 億円（同 9.1%増）、DMB1,100 億円（同 3.8%減）など。また、営業利益は、IAB275 億円（同 28.1%増）、HCB220 億円（同 19.2%増）、SSB170 億円（同 21.3%増）、DMB40 億円（同 27.1%増）などとなっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。